

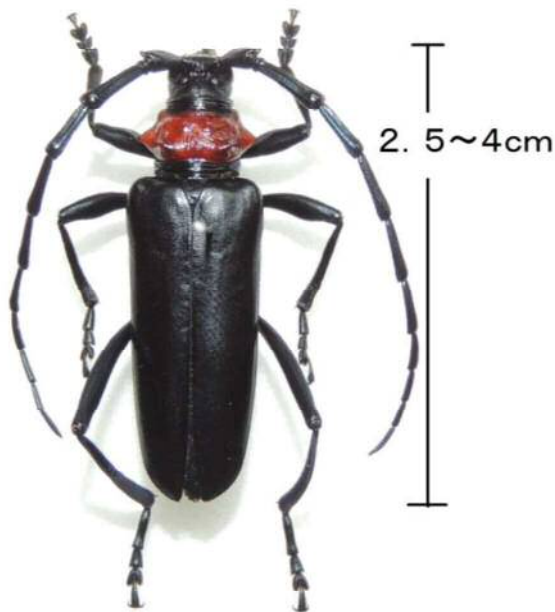
# クビアカツヤカミキリ

## 果樹とサクラへの被害拡大が懸念されています

クビアカツヤカミキリは、海外から日本へ侵入し、生態系等に問題を引き起こすとして、平成30年1月に国が特定外来生物に指定しました。

関東では、埼玉県その他、群馬県、栃木県の利根川沿いの地域や東京都で発生が確認されています。

県内では、利根川沿いの熊谷市、深谷市、加須市、行田市、羽生市及び県東部の草加市、越谷市で、サクラを中心に被害が確認されています。



成虫は全体に光沢のある黒色で、名前のおおりに首回り(前胸背板)の赤色が特徴。

6月中旬~8月上旬に現れ、幹等の樹皮の割れ目に産卵する。産卵数が多く、繁殖力旺盛。



幼虫は、モモ、スモモ、ウメ、サクラ等の主にバラ科樹木の内部を激しく食い荒らし、大量のフラス(糞と木屑が混ざったもの)を排出します。

1本の樹体に複数の個体が侵入すると、樹体が枯死することもあります。

# 県内での被害の様子



スモモの被害。樹体に幼虫が侵入すると、根元などにフラスの排出が確認できる。

樹体に生じた枯死

成虫脱出孔

【写真左】幼虫の間は2～3年。春～秋に樹木を摂食し、範囲は心材にまで及ぶ。

## 防除対策 -早期発見、早期防除が極めて重要-

- 春～秋にフラスが確認された場合、フラス排出孔から針金等を挿入し、フラスを取り除くとともに、幼虫を刺殺、または登録農薬を注入する。
- 成虫分散防止のため、羽化期(6～8月)前に、樹幹にネット(目合4mm以下)を巻き付ける。定期的に見回り、**羽化した成虫を捕殺する。**
- 樹木にフラス排出孔が確認され、枝等が枯死している場合は、伐倒処理が望ましい。伐採材は焼却処分する。切株に穴が開いている場合は、ネットを被せる等の処理をする。



### 果樹類のカミキリムシ類を対象とした農薬

平成30年2月2日現在

農薬の名称 (農薬の種類)	適用作物	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
ロビンフッド ベニカカミキリシエアゾール (フェンプロパトリンエアゾル)	果樹類(注1)	収穫前日まで	2回以内 (注2)	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射
バイオリサ・カミキリ (ボーベリア ブロンニアティ剤)	果樹類	成虫発生初期	—	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける

(注1) いちよう(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く。  
 (注2) 農薬成分のフェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数は樹種ごとに異なる。

農薬使用に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

本虫による農作物被害については、埼玉県病害虫防除所まで御相談ください。  
 (熊谷市須賀広784 電話:048-539-0661)

